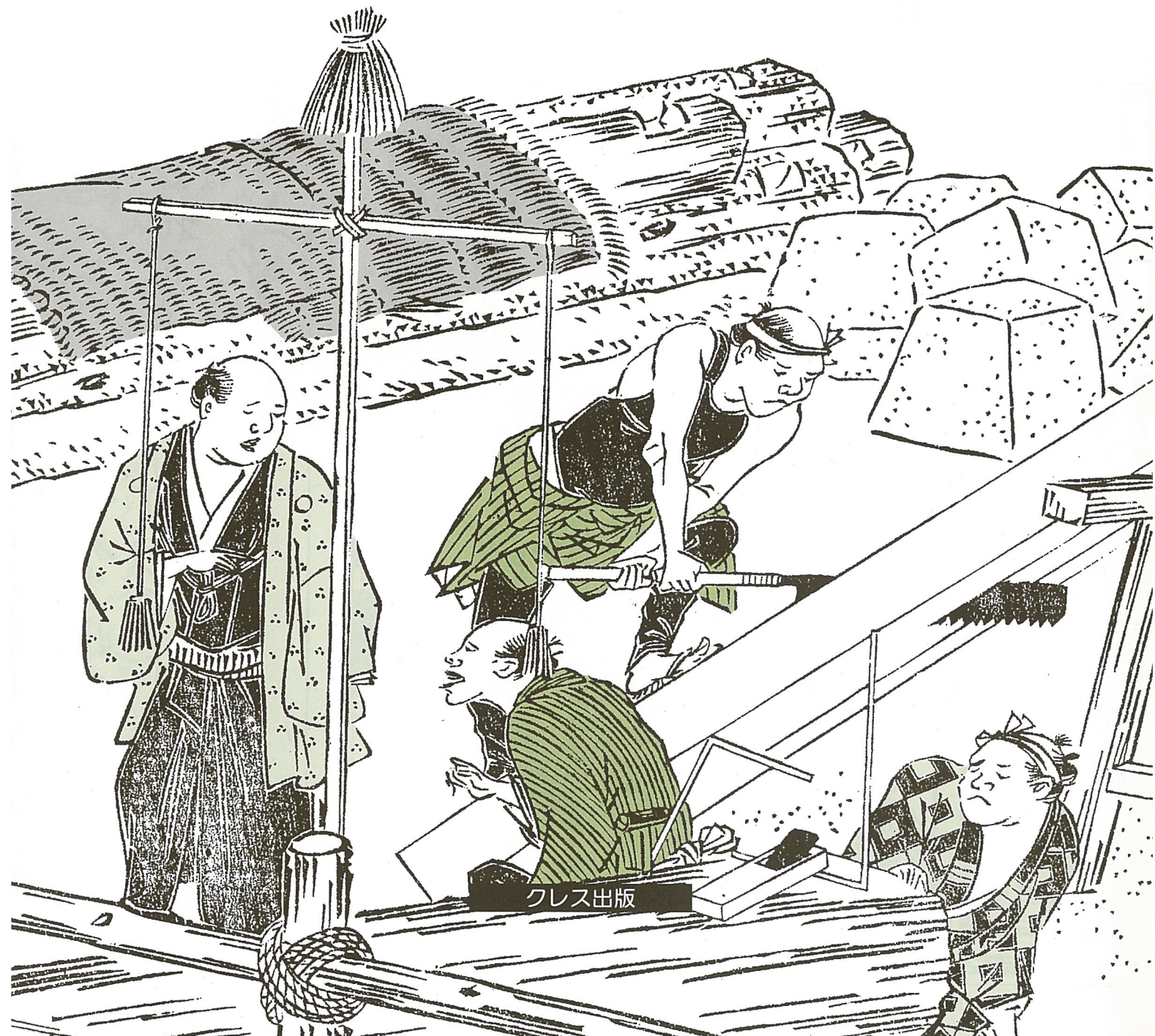
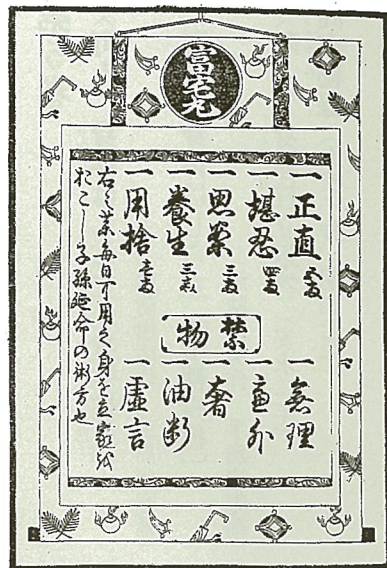


近世の町人思想が近現代にいかなる影響を及ぼし、
近世の庶民が何をどのように読んだのか。
約60点の商人教訓書を影印復刻、索引付。

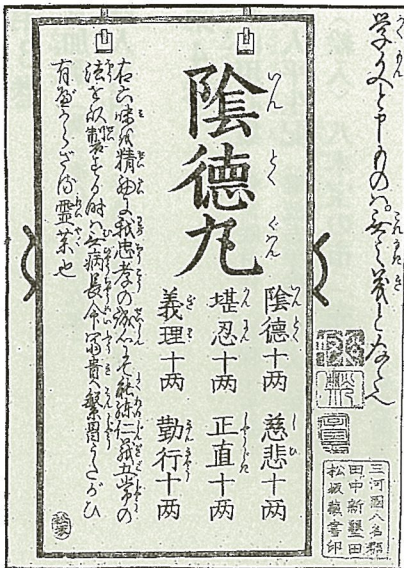
近世町人思想集成

全17巻 小泉 吉永 編・解題

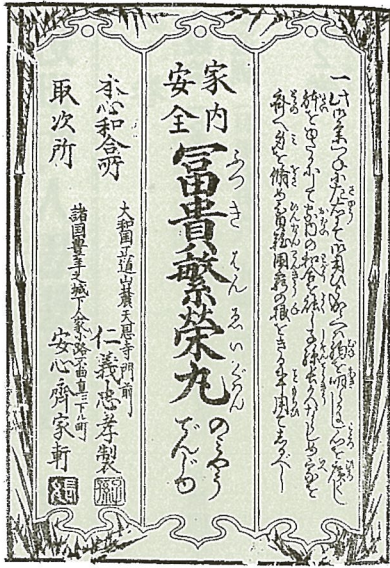




富宅丸 (第3巻)



陰徳丸 (第9巻)



富貴繁榮丸 (第11巻)

現代人にも効く？ 立身出世薬

小泉吉永

『日本永代蔵』第三巻に、ある大金持ちが貧乏脱出法を説いた「長者丸」の話が出てくる。これは、「朝起五両（両は薬種の重量）、家職二十両、夜詰八両、始末十両、達者七両」の合計五十両を配合して朝晩飲めば必ず長者になれるという妙薬で、つまり、「家業出精」を第一に、早起き・夜勤や儉約を心掛け、そのためには健康管理も欠かさすなどの教訓である。

この「立身出世薬」とも言うべき教訓手法は、後続の商人教訓書にも受け継がれた。ただし、享保十二年「商人夜話艸」の「富宅丸」は「正直五両、堪忍四両、思案三両、養生三両、用捨一両」、また、天明八年『渡世肝要記』の「陰徳丸」は「陰徳十両、慈悲十両、堪忍十両、正直十両、義理十両、勤行十両」、文政八年『富貴繁榮丸』は「堪忍、思案、了簡、分別、善事、陰行、実儀」の七味を等分にするという具合に、「薬味」の内容が変わっていった。

すなわち、年代が下るにつれ、「家業出精」「儉約」「養生」など商売に直結する徳目から「堪忍」「正直」「慈悲」などの一般倫理の比重が増していく。まさに、十八世紀後半から「町人道」は漸く「人間の道」に拡大され、「人」としてあるべきことを考えるようになった（宮本又次『近世商人意識の研究』）のである。本集成所収の「町人常の道」が後に『諸人常の道』と改題され、本文中の「町人」が「諸人」と改刻された事実も、この時代的潮流と無縁ではない。

これら商人教訓書は、『通俗経済文庫』『日本経済叢書』『日本経済大典』『日本思想大系』等に数々収録されている。しかし、いずれも翻刻であり、正確を期そうと思っても原本の閲覧は容易ではない。また、教訓内容とはかく、書物の詳細な検討、例えば、庶民の出版物受容の研究には、翻刻では不安も多く、限界がある。

このような思いから、長年蒐集してきた主要な商人教訓書を影印に付し、さらに、索引を設けることで、町人思想の変遷を一望し得る本集成を企画した。今回所収の約六十点に漏れた史料もあるし、町人思想に多大な影響を与えた石門心学には膨大な文献がある（これらの史料もいずれ手掛けたいとひそかに願っている）が、今回は、主要なものをほぼ網羅する第一弾として公刊する次第である。

近世の町人思想が近現代にいかなる影響を及ぼし、近世の庶民が何をどのように読んだのかを探る手がかりとして、本集成を縦横にご活用下されば、望外の喜びである。

（法政大学講師・往来物研究家）

近世町人思想集成 全17巻

* 年号は刊年を主とした。

第1巻

人鏡論〔金持重宝記〕（大儒性子作、元禄四年）
家道訓（貝原益軒作、正徳二年）

第2巻

町人囊（西川如見作、享保四年）

第3巻

冥加訓（関一楽作、享保九年）
商人夜話艸（手島宗義作、享保十二年）

第4巻

家内用心集（頓宮咲月作、享保十五年）
商人平生記（難波吾平作、元文三年）

〔絵入〕八木宝の市〔売買出世車図式〕

（赤松閣鬼望作、宝暦八年）

教訓 生業宝（田中友水作、江戸後期）

第5巻

〔町人〕身体はしら立〔身躰柱立〕

（周防由房作、手島堵庵補）

〔町人〕身体はしら立〔増補再板〕

（周防由房作、手島堵庵補）

〔町人〕身体柱立返答（安永二年）

商家秘録（大玄子作、明和七年）

第6巻

〔諸人〕立身始末鑑（木南堂作、明和九年）

〔増補〕立身始末鑑（木南堂作、文化八年）

〔羅羅〕八木虎之巻（猛虎軒作、天明七年）

〔羅羅〕八木豹之巻（猛虎軒作、安永二年）

〔町人身体〕商売出世鑑（木南子作、安永二年）

第7巻

〔町家式目〕分限玉乃礎（壮健翁作）

商人黄金袋（大江匡弼作、安永四年）

町人身体なをし（手島堵庵作、安永六年）

家訓心得草（中村一鷗作、安永七年）

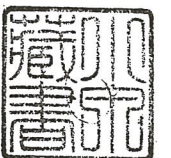
町人常の道

一町人常の道といふ道あり治をれ町人
 常といふは心も徳も是れ老死道可い道
 非ざる道といふは心も徳も本源をれ空か乃
 道ハ玄之又玄衆妙を門ありしと云ふ
 玄牝は心と徳とありしと云ふ
 問ふに町人の心を云ふと云ふは得ざる道

諸人常の道

大福長者訓

一凡ん常の道といふ道あり治をれ諸人
 常といふは心も徳も是れ老死道可い道
 非ざる道といふは心も徳も本源をれ空か乃
 道ハ玄之又玄衆妙を門ありしと云ふ
 玄牝は心と徳とありしと云ふ
 問ふに諸人の心を云ふと云ふは得ざる道



第8巻

町人常の道 (茂庵老人作、木村柳之編)
貴賤心躰直し (松柏軒作、安永八年)
<陰陽> 人間立身出世方 (天明二年)
<福德> 教訓けん約論 [福德教訓儉約論] (瓦長軒菊生作、寛政三年)
家業相続力艸 [家業相続教草] (土屋巨禎作、寛政六年)

第9巻

<諸家> 渡世肝要記 (有喜堂作、天明八年)
<増補> 渡世肝要記 (有喜堂作、江戸後期)
渡世肝要記二編 (桃花山人作、天保八年)
<教訓絵入> おしへくさ (夷曲集絵抄おしへ草) (寛政八年)

第10巻

<増補諸色> 相庭高下伝 [相場高下伝] (玉江漁隠編、享和元年)
<民間> さとし草 [民間諭草] (加藤景範作、享和元年)
<商家日用> 生要鄙話 (佐々木玉川作、文化十三年)

第11巻

肝要工夫録 (鵜殿長快作、文化十三年)
商家因草 (大口湖山作、文政二年)
<家内安全> 富貴繁榮丸 (荒井玉泉堂作、文政八年)
宝船桂帆柱 [職人尽・商人尽] (十返舎一九作、文政十年)
<金持伝授> 生財辨 (釈雲解作、文政十二年)

第12巻

我身之為 [中篇] (無極庵真嗣翁編、天保三年)
<御免> 儉約末乃栄 (山田野亭作、天保十三年)
<御免> 儉約末乃栄二編 (山田野亭作、天保十四年)
<御免> 質素儉約 現銀大安売 (山田野亭作、天保十三年)
長者之弗箱 (山田野亭作、明治二十五年)

第13巻

<心学> 出世礎 (天保十四年)
<教訓式目> 分限心之的 (山田野亭作、天保十五年)
主従日用条目 (池田義信作、弘化二年)
<主従日用条目附録> 民家必用条目 (池田義信作、弘化二年)
<教訓捷徑> 大学笑句 (為永春水作、天保年間)

第14巻

易術貨殖伝 [朴筮貨殖考] (井上鶴洲作、弘化二年)
貧福悟道捷徑 [善惡道中記四編] (溪斎英泉作、嘉永四年)
こゝろのはつな [意馬鞠] (青木誠翁作、嘉永五年)
貧福論義 (嘉永七年)
学用木賊文 [平生] 受用記 (与野木氏作、江戸後期*写本)

第15巻

<四民絵抄> 商家必読国字解 (堤一雲斎作、文久二年)
<勸善示蒙> 家職要道 [一〜三巻] (正司南駛作、明治八年)

第17巻

<勸善示蒙> 家職要道 [四・五巻] (正司南駛作、明治八年)
たしなみ草 (川公美作、明治十年)
解題・索引



第11巻『宝船桂帆柱』



第16巻『家職要道』



近世町人思想集成 全17巻

小泉 吉永 編・解題

A5判／上製函入クロス装／本文中性クリーム紙使用

揃定価180,000円(税別) ISBN978-4-87733-522-9(セット) C3312

●第1回配本 第1巻～第8巻 全8巻 揃定価85,000円(税別)

平成22年3月末日刊行 ISBN978-4-87733-523-6(セット)

●第2回配本 第9巻～第17巻 全9巻 揃定価95,000円(税別)

平成22年8月末日刊行 ISBN978-4-87733-524-3(セット)

●クレス出版好評既刊書●

近世育児書集成

全10巻／小泉吉永編・解題

江戸時代には数多くの子育て書が登場し、様々な育児論が展開した。従来の方面では平凡社東洋文庫の『子育て書』が最も重宝だったが、原本を正しく理解するには翻刻上の限界もあり、同書に未収録の文献も多数存在することから、今回54点を影印復刻。

A5判／総4,850頁／揃定価95,000円／ISBN4-87733-349-5

近世礼法書集成

全15巻別冊1／小泉吉永編・解題

江戸時代の小笠原流関連書53点を武家礼法・庶民礼法・女性礼法・婚礼に分類・集録し、武家から庶民、あるいは女性礼法への広がりや礼法の変遷が一望できるように試みた初の集成。「小笠原流」がどのように形成され一般化したのか、庶民にいかに関与されたか。

A5判／総6,100頁／揃定価124,000円／ISBN978-4-87733-400-0

複製 日本女性史叢書

全23巻別巻1／上笙一郎・山崎朋子編纂

〈日本女性史研究〉の明治から昭和30年代までの稀観45文献。

明治大正期Ⅰ 全6巻 揃84,000円 Ⅱ 全5巻 揃70,000円

昭和期Ⅰ 全6巻 揃90,000円 Ⅱ 全6巻 揃82,000円

別巻 日本女性史〈総論〉、各巻解説を纏めて再録 定価4,000円

A5判／総16,000頁／揃定価330,000円／978-4-87733-385-0ほか

家庭文庫

全12巻別冊解説／上笙一郎・山崎朋子編纂

大正の初期に、当時の女子・高等教育のリーダーとして高名だった人たちが、下田歌子・嘉悦孝子・吉岡弥生・棚橋絢子・津田梅子・矢島楫子・山脇房子・跡見花隠・三輪田真佐子などが、〈婦人文庫刊行会〉という会を結成。この会が、江戸時代の女訓書を集成した『婦人文庫』(全12巻)に次いで、その近代版として編んだもの。〈女性思想〉を追究し〈家庭思想〉の展開を跡づけるためには必須の貴重文献。

四六判／総4,540頁／揃定価91,000円 ISBN4-87733-326-6

《女性原論》新婦人訓(成瀬仁蔵)、良妻賢母論(宮田脩)

《家庭原論》家政講話(嘉悦孝子)、家庭経済(和田垣謙三)

《家庭生活》理想の住宅(保岡勝也)、家庭衛生(吉岡弥生)

《家庭教養》家庭博物(石川千代松)、新美装法(藤波芙蓉)

《家庭文化》家庭の娯楽(松浦政泰)、芸術講話(島村抱月)

《産育教育》児童の教養(三田谷啓)、童話の研究(高木敏雄)

日本の子ども研究

全Ⅲ期15巻別巻5／大泉溥編・解説

日本の児童研究がいかんして成立し、時代社会とのどんな緊張関係において展開してきたのか、不可欠な基本資料を体系的に網羅。

●第Ⅰ期 子ども理解の科学化 明治・大正期を中心に 476-5

第1巻 欧米児童研究の移植と初期の研究 定価19,000円

第2巻 児童観の進展と心理学への期待 定価22,000円

第3巻 発達研究の開拓と知能検査の翻案 定価22,000円

第4巻 大正新教育と学力評価 定価19,000円

別巻Ⅰ 近代日本の児童相談 定価13,000円

■第一回配本 第1巻～第4巻、別巻Ⅰ 全5巻 揃定価95,000円

第Ⅱ期 子ども理解の拡がりや試練(一) 481-9

第5巻 昭和初期の心理学と実践 定価22,000円

第6巻 一九三〇年代日本の児童研究 定価20,000円

第7巻 留岡清男の子ども研究と生活教育論 定価20,000円

第8巻 奥田三郎の子ども研究と治療教育方法論 定価20,000円

■第二回配本 第5巻～第8巻 全4巻 揃定価82,000円

第Ⅱ期 子ども理解の拡がりや試練(二) 486-4

第9巻 児童心理学の戦中と戦後 定価26,000円

第10巻 戦後児童心理学の再出発 定価25,000円

別巻Ⅱ 戦後の教育心理学の起点 定価21,000円

別巻Ⅲ 児童心理学の総括 定価23,000円

■第三回配本 第9、10巻、別巻Ⅱ、Ⅲ 全4巻 揃定価95,000円

■第四回配本 解説 487-1 定価5,000円

全Ⅲ期10巻別巻3 A5判／総14,500頁／揃定価277,000円

《日本人、育てのなかのしつけ論》 文献シリーズ

全9巻／石川松太郎・山本敏子・藤枝充子編・解説

「しつけ」の歴史と将来の課題とを念頭において、明治から昭和末までの18文献を収録。教育学はもとより、心理学・社会学・民俗学・民族学・小児医学など広域におよぶ視角から選抄。

A5判／総4,560頁／揃定価90,000円 ISBN4-87733-327-X

第1巻 日本のしつけ、日本礼法史話

第2巻 婦人心得 躰と育、子供の躰方 一名育児憲法

第3巻 家庭教育 子供のしつけ方、実験 子供の躰け方

第4巻 女工の躰けと教育、女工の躰けは此呼吸から

第5巻 国民学校 躰の修練実践、国民学校 ヨイコドモの躰

第6巻 幼児の家庭教育、子どもの自由としつけ

第7巻 こどもの心理としつけ、幼児の心理としつけ

第8巻 巨視的しつけ法、しつけ

第9巻 言葉の教養 躰の変遷と現代の問題点、しつけ

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋

☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版

●書店名